

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第67期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 東テク株式会社

【英訳名】 TOTTECH CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長尾 克己

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋本町三丁目11番11号

【電話番号】 (03)6632-7000

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理本部長 金井 俊和

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋本町三丁目11番11号

【電話番号】 (03)6632-7003

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理本部長 金井 俊和

【縦覧に供する場所】 東テク株式会社 大阪支店
(大阪市中央区平野町四丁目2番3号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第2四半期 連結累計期間	第67期 第2四半期 連結累計期間	第66期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (百万円)	50,041	48,753	109,650
経常利益 (百万円)	2,795	2,537	6,806
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,764	1,628	4,795
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,109	2,249	7,369
純資産額 (百万円)	34,564	39,923	38,591
総資産額 (百万円)	74,964	77,402	81,484
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	129.32	119.24	2,826.87
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.1	51.6	47.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,801	3,910	5,242
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,569	1,551	2,265
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,967	2,752	3,795
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	4,963	4,486	4,880

回次	第66期 第2四半期 連結会計期間	第67期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	114.79	111.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
3. 1株当たり四半期(当期)純利益については、その算定上の基礎となる期中平均株式数を計算するに当たり「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社の普通株式を控除対象の自己株式に含めております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありませんが、営む事業とセグメントとの関連をより明確にするために、前連結会計年度における有価証券報告書にて記載した内容を変更いたします。

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び子会社9社で構成され、商品販売事業として空調機器や制御機器、設備機器を中心とした機器販売と、販売した機器の保守やスポットメンテナンスを行っており、工事業として計装工事、管工事ほか各種工事の設計・施工（工事に付随する制御システム等の販売も含む）と、施工工事に対する保守やスポットメンテナンスを行っております。

主要な関係会社の異動はありませんが、当第2四半期連結会計期間においてベトナム社会主義共和国に当社の完全子会社となるTotech Vietnam Solutions Co., Ltd.を設立し出資いたしました。なお同社は重要性の観点に基づき非連結子会社としております。また前連結会計年度末において非連結子会社であった志賀計装(株)は第1四半期連結会計期間において当社がその全株式を譲渡したため、当社グループの構成から外れております。

当社グループの事業に係る位置づけ及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

商品販売事業

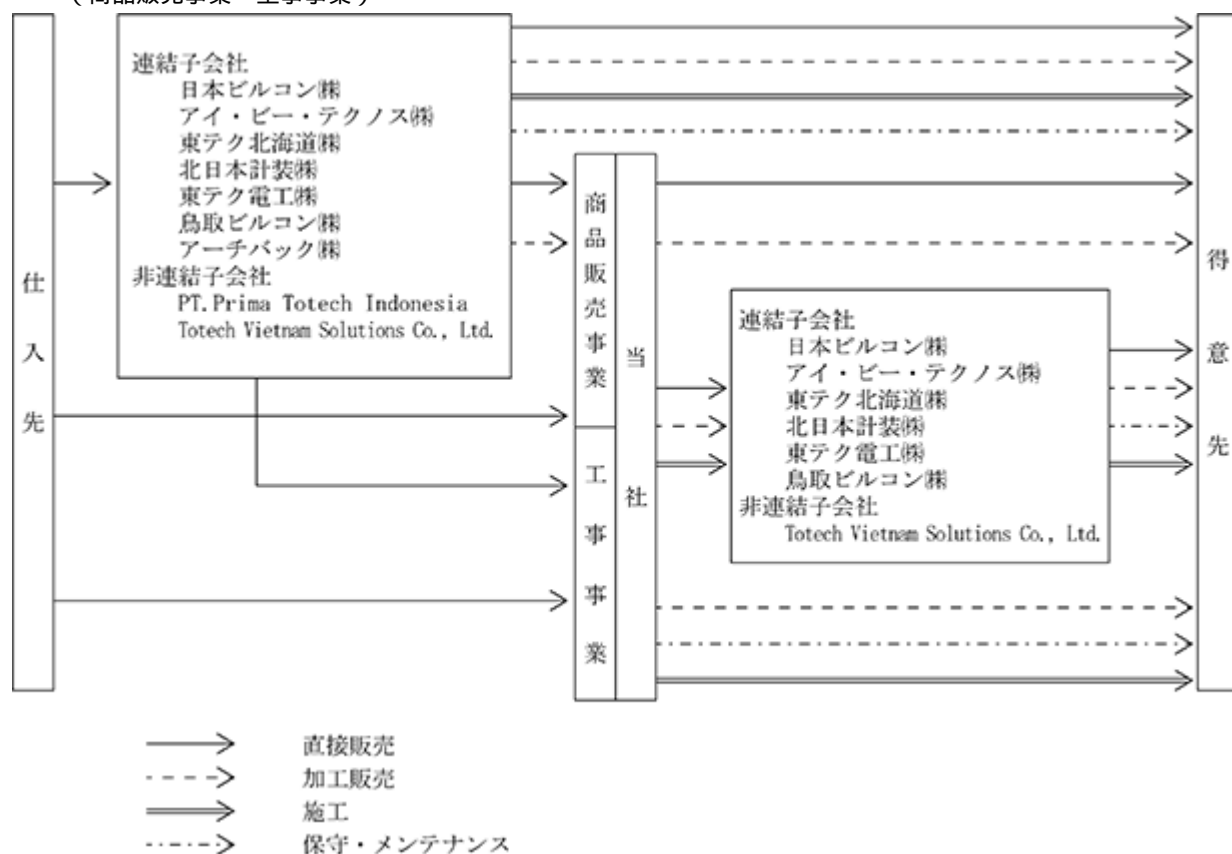
- | | | |
|-----------|-------|--|
| 機器販売 | | 主に当社、東テク北海道(株)、アーチバック(株)、PT.Prima Totech Indonesia及びTotech Vietnam Solutions Co., Ltd.にて、空調機器・制御機器・設備機器・発電機等を販売しております。 |
| 保守・メンテナンス | | 主に当社、日本ビルコン(株)、東テク北海道(株)及びTotech Vietnam Solutions Co., Ltd.にて、当社グループが納入した機器の保守点検・メンテナンス業務等を行っております。 |

工事業

- | | | |
|-----------|-------|---|
| 工事施工 | | 主に当社、アイ・ビー・テクノス(株)、北日本計装(株)及びTotech Vietnam Solutions Co., Ltd.にて計装工事の設計・施工等を行っております。また、当社、日本ビルコン(株)、東テク北海道(株)及び鳥取ビルコン(株)において管工事の設計・施工等を、東テク電工(株)において電気工事の設計・施工等を行っております。 |
| 保守・メンテナンス | | 主に当社、アイ・ビー・テクノス(株)、東テク北海道(株)及びTotech Vietnam Solutions Co., Ltd.にて、当社グループが施工した計装工事及び管工事に対する保守点検・メンテナンス業務等を行っております。 |
| その他 | | 当社において、保有する太陽光発電施設を利用した電力会社への売電を行っております。 |

事業の系統図は次のとおりであります。

(商品販売事業・工事業)



連結子会社	日本ビルコン㈱	空調機器等の保守・メンテナンス、及び管工事の設計・施工等
	アイ・ビー・テクノス㈱	計装工事の設計・施工及び保守・メンテナンス等
	東テック北海道㈱	北海道地区での空調機器等の販売・保守・メンテナンス、及び管工事の設計・施工・保守・メンテナンス等
	北日本計装㈱	東北地区での計装工事の設計・施工等
	東テック電工㈱	京葉地区での電気工事の設計・施工等
	鳥取ビルコン㈱	山陰地区での管工事の設計・施工等
	アーチバック㈱	制御機器の輸入販売等
非連結子会社	PT.Prima Totech Indonesia	インドネシアでの空調機器の販売等
	Totech Vietnam Solutions Co., Ltd.	ベトナムでの空調機器等の販売・各種工事・保守・メンテナンス等

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が各地で適用され、依然として経済活動が大きく制限されました。しかしながら各種政策の効果や国内でのワクチン接種の進展、また海外経済の改善等もあり、今後の景気回復への期待感が高まりつつあります。

当社グループを取り巻く建設業界におきましては、企業収益に持ち直しの傾向が見られる中で民間設備投資が再開され始めましたが、一方で技術者の慢性的な人手不足や労務費の高止まりにより、収益環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下で、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は以下のとおりとなりました。

売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により建設工事の一部に着工や進捗の遅延等が発生していることから、48,753百万円(前年同期比2.6%減)となりました。利益面につきましては、売上総利益が前年同期比で2.1%増加したものの、販売費及び一般管理費において人件費の増加や前期12月に稼働を開始した新基幹システムの減価償却費計上の影響もあり、営業利益は2,282百万円(前年同期比3.5%減)となりました。またこれに伴い、経常利益は2,537百万円(前年同期比9.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,628百万円(前年同期比7.7%減)となりました。「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等の適用により、売上高は553百万円減少し、営業利益、経常利益はそれぞれ28百万円減少しております。

なお、当社グループは売上高が第4四半期連結会計期間に集中する傾向があり、業績には季節の変動があります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

< 商品販売事業 >

商品販売事業におきましては、空調機器、制御機器、設備機器を中心とした機器販売と、販売した機器の保守やスポットメンテナンスを行っております。売上高は33,191百万円(前年同期比3.0%減)、売上総利益は7,077百万円(前年同期比2.2%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は553百万円減少し、売上総利益は28百万円減少しております。

< 工事業業 >

工事業業におきましては、計装工事、管工事ほか各種工事の設計・施工と、施工工事に対する保守やスポットメンテナンスを行っております。売上高は16,212百万円(前年同期比0.5%減)、売上総利益は5,105百万円(前年同期比1.8%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用による影響はありません。

資産合計は、前連結会計年度末に比べて4,081百万円減少し77,402百万円となりました。これは保有有価証券の時価上昇等により投資有価証券が990百万円増加した一方で、営業債権や棚卸資産の純減4,499百万円等により流動資産が5,176百万円減少したことが主な要因です。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて5,414百万円減少し37,479百万円となりました。これは支払手形及び買掛金や電子記録債務の減少2,675百万円や有利子負債の減少1,662百万円に加え、未払法人税等の減少951百万円があったことが主な要因です。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,332百万円増加し39,923百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上から配当金の支払等を差し引いた利益剰余金の純増額685百万円に加え、保有有価証券の時価上昇によりその他有価証券評価差額金が639百万円増加したことが主な要因です。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は51.6%となり、前連結会計年度末に比べ4.2%上昇しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べて394百万円減少し4,486百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果得られた資金は3,910百万円(前年同期は2,801百万円の収入)となりました。これは、仕入債務の減少2,675百万円及び法人税等の支払額1,461百万円により資金が減少するも、売上債権の減少6,163百万円及び税金等調整前四半期純利益2,537百万円並びに減価償却費635百万円の計上により資金の増加があったことが主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は1,551百万円(前年同期は1,569百万円の支出)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出1,129百万円と無形固定資産の取得による支出515百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果使用した資金は2,752百万円(前年同期は1,967百万円の支出)となりました。これは、主に配当金の支払915百万円による支出及び借入金及び社債の純減額1,672百万円があったことによるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,308,000
計	46,308,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,988,000	13,988,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	13,988,000	13,988,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	-	13,988,000	-	1,857	-	1,829

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在			
氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本レイ株式会社	東京都渋谷区広尾 4 1 11	1,760	12.87
ダイキン工業株式会社	大阪府大阪市北区中崎西 2 4 12	1,000	7.31
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内 2 7 1)	879	6.43
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 11 3	756	5.53
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町 1 5 5	670	4.90
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内 1 1 2	670	4.90
東テックグループ従業員持株会	東京都中央区日本橋本町 3 11 11	634	4.64
住友商事株式会社	東京都千代田区大手町 2 3 2	631	4.61
草野 和幸	東京都渋谷区	392	2.87
昭和鉄工株式会社	福岡県糟屋郡宇美町宇美3351 8	378	2.76
計		7,771	56.83

(注) 上記のほか当社所有の自己株式312千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 312,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,672,700	136,727	-
単元未満株式	普通株式 3,200	-	1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,988,000	-	-
総株主の議決権	-	136,727	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。

2. 「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式11,800株(議決権の数118個)は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しておりますが、従業員の議決権行使状況を反映した信託管理人の指図に従い議決権行使されるため、上表では「完全議決権株式(その他)」の普通株式に含めております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東テク株式会社	東京都中央区日本橋本町 3 - 11 - 11	312,100	-	312,100	2.23
計	-	312,100	-	312,100	2.23

(注) 上記のほか「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式11,800株を四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,045	4,652
受取手形及び売掛金	27,138	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	21,754
電子記録債権	7,957	7,483
棚卸資産	¹ 1,733	¹ 3,092
未収入金	3,262	2,891
その他	126	217
貸倒引当金	52	56
流動資産合計	45,212	40,035
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,127	10,105
土地	8,111	8,721
リース資産	1,013	1,099
建設仮勘定	15	327
その他	843	789
減価償却累計額	3,683	3,881
有形固定資産合計	16,428	17,162
無形固定資産		
のれん	1,131	942
ソフトウェア	2,077	2,146
ソフトウェア仮勘定	68	12
その他	318	244
無形固定資産合計	3,596	3,346
投資その他の資産		
投資有価証券	12,233	13,223
繰延税金資産	299	229
その他	3,978	3,483
貸倒引当金	263	78
投資その他の資産合計	16,247	16,858
固定資産合計	36,272	37,367
資産合計	81,484	77,402

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,293	11,251
電子記録債務	6,242	4,609
短期借入金	6,108	6,466
1年内償還予定の社債	28	28
未払法人税等	1,504	553
賞与引当金	2,305	1,673
役員賞与引当金	43	38
その他	3,485	3,551
流動負債合計	32,012	28,173
固定負債		
社債	32	18
長期借入金	7,913	5,907
繰延税金負債	993	1,582
役員退職慰労引当金	959	934
退職給付に係る負債	319	247
その他	661	615
固定負債合計	10,880	9,305
負債合計	42,893	37,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,857	1,857
資本剰余金	2,081	2,081
利益剰余金	29,397	30,082
自己株式	160	134
株主資本合計	33,175	33,887
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,251	5,891
退職給付に係る調整累計額	164	145
その他の包括利益累計額合計	5,416	6,036
純資産合計	38,591	39,923
負債純資産合計	81,484	77,402

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	50,041	48,753
売上原価	38,092	36,558
売上総利益	11,949	12,194
販売費及び一般管理費	2 9,584	2 9,911
営業利益	2,364	2,282
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	112	112
仕入割引	171	166
受取補償金	193	18
雑収入	51	48
営業外収益合計	532	347
営業外費用		
支払利息	46	37
貸倒引当金繰入額	2	-
支払保証料	30	35
雑損失	21	20
営業外費用合計	101	93
経常利益	2,795	2,537
特別損失		
投資有価証券評価損	13	-
特別損失合計	13	-
税金等調整前四半期純利益	2,782	2,537
法人税、住民税及び事業税	741	531
法人税等調整額	275	376
法人税等合計	1,017	908
四半期純利益	1,764	1,628
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,764	1,628

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,764	1,628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,290	639
退職給付に係る調整額	54	19
その他の包括利益合計	1,344	620
四半期包括利益	3,109	2,249
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,109	2,249
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,782	2,537
減価償却費	400	635
のれん償却額	195	188
有価証券及び投資有価証券評価損益（は益）	13	-
受取利息及び受取配当金	116	114
支払利息	33	29
賞与引当金の増減額（は減少）	819	632
売上債権の増減額（は増加）	6,114	6,163
棚卸資産の増減額（は増加）	126	1,359
未収入金の増減額（は増加）	1,028	346
仕入債務の増減額（は減少）	4,913	2,675
未払消費税等の増減額（は減少）	429	20
その他	104	191
小計	4,057	5,289
利息及び配当金の受取額	115	113
利息の支払額	31	31
法人税等の支払額	1,340	1,461
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,801	3,910
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	65	70
定期預金の払戻による収入	65	70
有形固定資産の取得による支出	674	1,129
無形固定資産の取得による支出	919	515
投資有価証券の取得による支出	127	48
その他	151	141
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,569	1,551
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	190	1,010
長期借入れによる収入	2,100	-
長期借入金の返済による支出	2,671	2,668
社債の償還による支出	164	14
配当金の支払額	861	915
その他	181	164
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,967	2,752
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	736	394
現金及び現金同等物の期首残高	5,699	4,880
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 4,963	1 4,486

【注記事項】

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、商品販売事業に関する一部取引について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財またはサービスの提供における役割を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。また、従来出荷時に収益を認識していた一部取引についても、着荷時に収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は553百万円、売上原価は524百万円それぞれ減少し、これに伴い営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ28百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は26百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「未成工事受入金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として「その他」に含めて表示することとしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（表示方法の変更）

（四半期連結貸借対照表関係）

前連結会計年度において独立掲記していた流動負債の「未成工事受入金」につきまして、金額的重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より流動負債の「その他」に含めて表示しております。

当該表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動負債に表示していた「未成工事受入金」422百万円、「その他」3,063百万円は、「その他」3,485百万円として組み替えております。

（四半期連結損益計算書関係）

前第2四半期連結累計期間において、独立掲記していた営業外費用の「手形売却損」は、金額的重要性が乏しくなったため、第1四半期連結累計期間より営業外費用の「雑損失」に含めて表示しております。

当該表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っています。この結果、営業外費用の「手形売却損」に表示していた3百万円、「雑損失」に表示していた18百万円は、営業外費用の「雑損失」21百万円として組み替えております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前第2四半期連結累計期間において、独立掲記していた営業活動によるキャッシュ・フローの「未成工事受入金の増減額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当第2四半期連結累計期間より営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しております。

当該表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っています。この結果、営業活動によるキャッシュ・フローの「未成工事受入金の増減額」に表示していた108百万円、「その他」に表示していた212百万円は、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」104百万円として組み替えております。

（株式取得による会社等の買収）

前連結会計年度において重要な後発事象として記載しておりましたQuantum Automation Pte Ltdの株式取得につきましては、引き続き同社の株式取得に向け交渉中であります。

（四半期連結貸借対照表関係）

1. 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
商品	1,327百万円	2,488百万円
貯蔵品	8	4
未成工事支出金	397	599

2. 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
受取手形割引高	1,071百万円	695百万円
受取手形裏書譲渡高	-	2

（四半期連結損益計算書関係）

1. 損益の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

当社グループの営業形態として売上が第4四半期連結会計期間に集中する傾向があるため、第2四半期連結累計期間の売上高は相対的に少なくなる傾向にあります。しかし、人件費等の固定費は四半期ごとに変動する性質ではないため、結果として、第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は少なくなる傾向にあります。

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
従業員給料及び手当	3,933百万円	4,056百万円
賞与引当金繰入額	1,346	1,391
退職給付費用	266	179

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 . 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)
現金及び預金勘定	5,128百万円	4,652百万円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	164	165
現金及び現金同等物	4,963	4,486

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)

1 . 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年 6 月24日 定時株主総会	普通株式	861	63	2020年 3 月31日	2020年 6 月25日	利益剰余金

(注) 2020年 6 月24日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金 2 百万円が含まれております。

2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月 2 日 取締役会	普通株式	232	17	2020年 9 月30日	2020年12月 4 日	利益剰余金

(注) 2020年11月 2 日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金 0 百万円が含まれております。

当第 2 四半期連結累計期間(自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)

1 . 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 6 月25日 定時株主総会	普通株式	916	67	2021年 3 月31日	2021年 6 月28日	利益剰余金

(注) 2021年 6 月25日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金 1 百万円が含まれております。

2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月 2 日 取締役会	普通株式	232	17	2021年 9 月30日	2021年12月 3 日	利益剰余金

(注) 2021年11月 2 日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金 0 百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	商品販売 事業	工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	33,840	16,174	50,015	26	50,041	-	50,041
セグメント間の 内部売上高又は振替高	366	112	478	-	478	478	-
計	34,207	16,286	50,494	26	50,520	478	50,041
セグメント利益	6,926	5,016	11,943	11	11,955	6	11,949

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っております。

2. セグメント利益の調整額 6百万円は、主にセグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	商品販売 事業	工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	32,607	16,120	48,728	25	48,753	-	48,753
セグメント間の 内部売上高又は振替高	584	92	676	-	676	676	-
計	33,191	16,212	49,404	25	49,429	676	48,753
セグメント利益	7,077	5,105	12,183	13	12,196	2	12,194

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っております。

2. セグメント利益の調整額 2百万円は、主にセグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「商品販売事業」の売上高は553百万円、セグメント利益は28百万円それぞれ減少しておりますが、「工事業」への影響はありません。

(収益認識関係)
顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	商品販売 事業	工事業	計		
機器販売	27,876	-	27,876	-	27,876
工事施工	-	12,808	12,808	-	12,808
保守・メンテナンス	6,436	3,584	10,020	-	10,020
その他	-	-	-	25	25
内部売上高	1,705	272	1,977	-	1,977
顧客との契約から生じる収益	32,607	16,120	48,728	25	48,753
外部顧客への売上高	32,607	16,120	48,728	25	48,753

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益	129円32銭	119円24銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,764	1,628
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,764	1,628
普通株式の期中平均株式数(株)	13,648,304	13,660,534

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 普通株式の期中平均株式数については、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社の普通株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間27,700株、当第2四半期連結累計期間15,386株であります。

2 【その他】

2021年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当について次のとおり決議いたしました。

配当金の総額.....232百万円

1株当たりの金額.....17円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日..... 2021年12月3日

(注) 1. 2021年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対して中間配当を行います。

2. 2021年11月2日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として信託口が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

東テク株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣 瀬 美 智 代

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東テク株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東テク株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。